

# 集落営農の取り組みは

## リーダーの育成が必要である



鮫島 春男 議員

集落営農の必要性や設立の方法について、住民にどのような説明をしているか。

担い手確保対策として進める

町長

担い手農家の減少や高齢化が進展しており、地域の担い手確保という点で限界がある。集落営農は農業生産の維持、耕作放棄地の防止となり、将来的には担い手確保対策として有効に機能する事が期待できる。取り組みは地域の農地を面として管理していく手法である事から、耕作放棄地を出さずに、地域の農地保全や管理しやすい面がある。経営面でも、小規模な稲作農家においては一

般に農機具への投資が過大になり赤字になりがちであるが、機械の共同利用による集落営農に取り組んだり、さらに集落営農の法人化を進めることで経費が大幅に削減される。

今後の進め方は

鮫島議員

将来はどうしても集落営農は必要だと思う。どのように推進していくのか。

リーダーの育成を

図る

町長

将来、担い手農家が不足する地域において集落営農組織の構築に向けて推進活動を実施している。平成19年度は下永吉地区などモデル地区を選定し、集落の現況調査を実施し、その結果を基に座談会もした。地域の意見を調整し、まとめていくリーダーの育成が必要

である。地域の代表者を対象に集落営農塾の開催やリーダー育成に向けた先進地研修会を開催するなど、組織を立ち上げるための基礎的な研修を数回実施しており、今後も進めていく。

本町の水田の状況は

鮫島議員

本町の水田の大部分が湿田である。大型機械が使用出来ず荒廃地となっている状況であるが、どのように捉えているか。

基盤整備促進に

努める

町長

本町の水田の基盤整備率は、平成18年度末で16%と、畑に比べ非常に遅れている。今年より長田・岡別府両地区のほ場整備に着手し、さらに下持留地区の新規採択に向けて準備を進めながら未整備水田の基盤整備促進に努める。

水田の暗渠排水に補助金は出せないか

鮫島議員

水田の暗渠排水は、反当15万〜20万円かかるが、機械借上げ等で補助金は出せないか。

ほ場整備とセツトが

望ましい

町長

暗渠排水の補助の件は、耕地事業の中では、暗渠排水のみの事業を行う場合は採択要件がある。一団地の受益面積が5ヘクタール以上、次に団地に係る農用地面積に占める担い手の経営に係わる農地面積の割合が25%以上、かつ当該事業



岡別府地区の基盤整備事業

の実施により、農用地利用集積の数值が増加するなどの選択要件があり、受益者負担金は45%となっている。本町の暗渠排水整備は現在実施しているほ場整備のような事業とセツトで実施する事が望ましいと考え